

第2章 子どもの交通事故に関する傾向分析

第1節 道路交通事故の現状

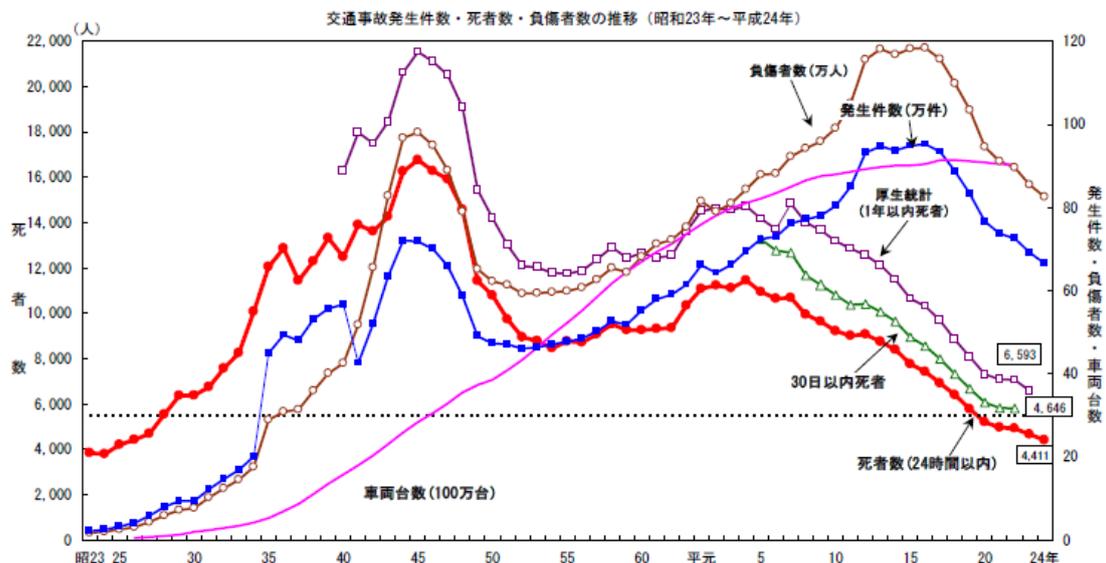
1. 交通事故発生件数、死者数、負傷者数の推移

(1) 交通事故死者数の推移

道路交通事故死者数の推移をみると、昭和20年代後半から著しく増加しており、45年には1万6,765人となった。

その後、減少に転じ、54年には8,466人となったものの再び増勢に転じ、平成4年に二度目のピークを迎えたが、その後は減少傾向となった。平成21年の交通事故死者数は4,968人となり、昭和27年以来57年振りに5千人台を下回った。さらに、平成24年の交通事故死者数は4,411人まで減少し、12年連続の減少となるとともに、昭和45年の約4分の1の水準に低下した。

図表 II- 1 道路交通事故による交通事故発生件数、死者数及び負傷者数



資料) 警察庁交通局(2013年)『平成24年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について』

- 注1) 昭和34年までは、軽微な被害事故(8日未満の負傷、2万円以下の物的損害)は含まない。
 注2) 昭和40年までの件数は、物損事故を含む。
 注3) 昭和46年以前は、沖縄県を含まない。
 注4) 厚生統計は、厚生労働省統計資料「人口動態統計」による当該年に死亡した者のうち原死因が交通事故の死者数である。なお、平成6年までは自動車事故とされた者の数を、平成7年からは交通事故とされた者から道路上の交通事故ではないと判断される者を除いた数を計上。

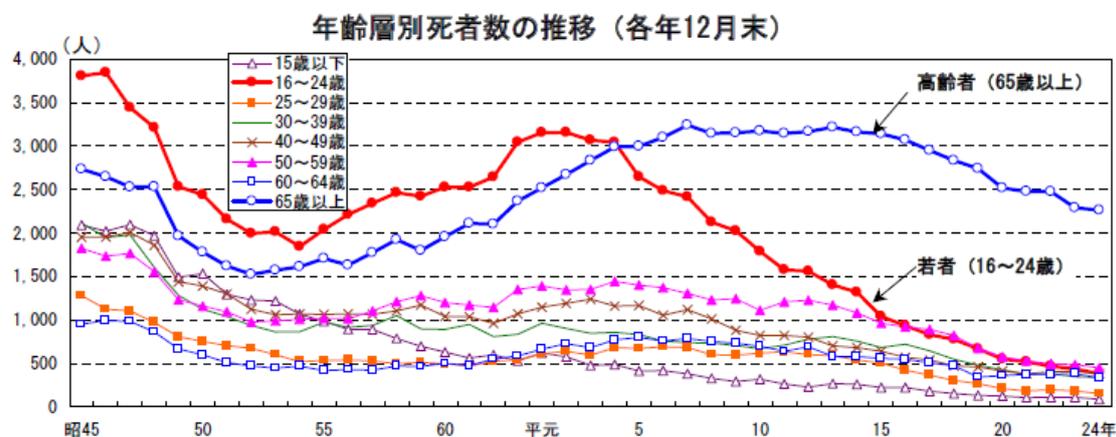
(2) 年齢層別の交通事故死者数の推移

年齢層別の交通事故死者数の推移をみると、近年はすべての年齢層で減少傾向がみられ、過去20年間では、特に16～24歳の若者の減少傾向が顕著である。

他方、65歳以上の高齢者の死者数2,264人(平成24年)は20年連続で最も多く、死者数に占める割合は、同年齢の人口構成率23.3%の2倍を超える51.3%となっている。

15歳以下の子どもの死亡者数は、平成24年には92人となり、ここ10年間で3分の1程度にまで減少している。

図表 II-2 年齢層別交通事故死者数(各年12月末)の推移



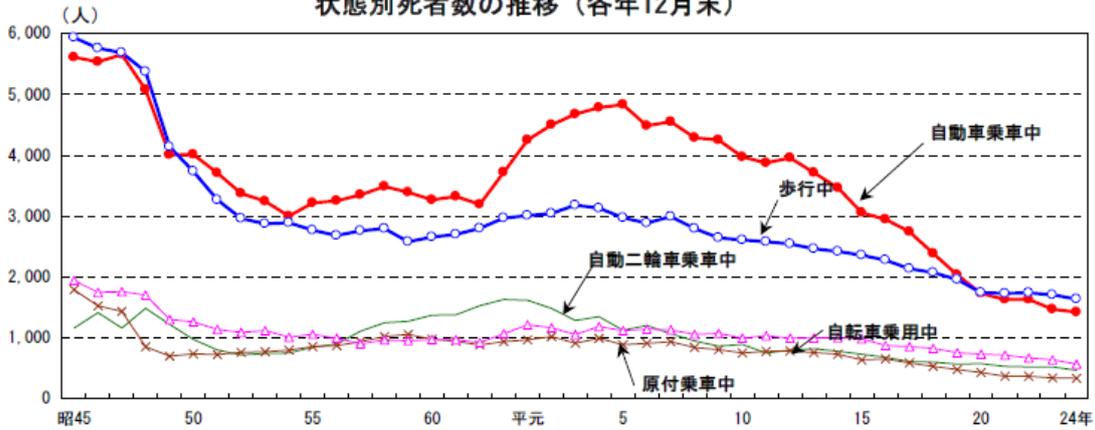
資料) 警察庁交通局(2013年)『平成24年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について』

(3) 状態別交通事故死者数の推移

状態別の交通事故死者数の推移をみると、近年はすべての状態で減少傾向にあり、過去 10 年間では、特に自動車乗車中の減少が顕著であり、平成 20 年には歩行中の死者数を下回った。

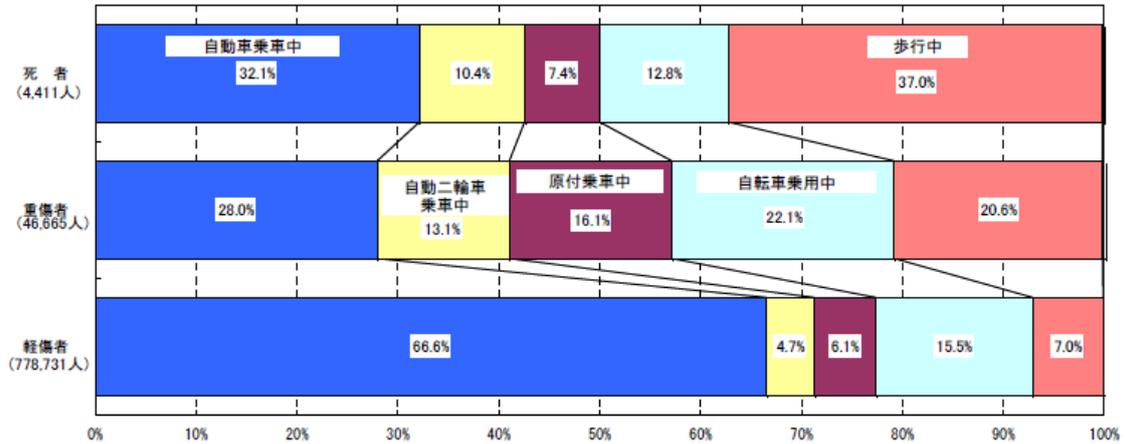
平成 24 年中の交通事故死者数を状態別にみると、歩行中（1,634 人）が最も多く、次いで自動車乗車中（1,417 人）となっており、両者で全体の 69.1%を占めている。

図表 II- 3 状態別交通事故死者数（各年 12 月末）の推移
状態別死者数の推移（各年12月末）



資料) 警察庁交通局（2013 年）『平成 24 年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について』

図表 II- 4 状態別交通事故死傷者数の構成比（平成 24 年中）



資料) 警察庁交通局（2013 年）『平成 24 年中の交通事故の発生状況』